

**「仙台市環境行動計画」  
令和5年度環境監査報告書**

**令和6年2月5日**

**環境監査委員会**



## 1. 監査の概要

### (1) 実施日

令和5年11月28日、29日

### (2) 監査対象部局

環境管理事務局（環境局環境企画課）及び下記の4局・区

- ・ 危機管理局（危機管理課）
- ・ 宮城野区（総務課）
- ・ 建設局（八木山動物公園管理課）
- ・ 教育局（学事課・八木山南小学校）

### (3) 監査委員（五十音順：○印は監査委員長）

- ・ 小林 幸司 : せんだい E-Action 委員長
- ・ 加藤 保世明 : みちのく環境管理規格認証機構 評価員・審査員
- 中田 俊彦 : 東北大学大学院工学研究科 教授

## 2. 総合所見

平成18年度から運用開始された「新・仙台市環境行動計画」は、脱炭素社会の構築やプラスチック資源循環の推進等の新たな環境課題に率先して取り組むため、令和3年3月に「仙台市環境行動計画」に改定されるなど、継続的に見直しが行われてきた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度から4年度まで環境監査は中止されたが、環境負荷低減と感染症対策の両立に取り組み、環境マネジメントシステムの質の向上及び運用の改善が図られてきた。

現行計画においては、全庁共通目標として令和7年度における二酸化炭素排出量及び一般廃棄物排出量に係る削減目標を掲げており、計画に定めた取り組みが着実に実行されている。一方で、産業廃棄物の保管において、必要な項目が掲示されていない事例が見受けられるなど、確実な法令遵守に向け、取り組みの徹底が必要である。

また、環境行動においては、根拠に基づいた目標設定と、過去の実績値の客観的な分析が重要であるが、従来のこうした環境行動啓発型の環境監査に加え、今後の環境監査においては、カーボンニュートラルの実現に向けた観点も必要であると考えられる。本計画の取り組みにおいては、脱炭素社会の実現に向けた動きなど、近年の環境施策を取り巻く動向等を踏まえるとともに、引き続き、市民や事業者の範となるよう、市が率先して環境負荷低減に取り組まれることを期待する。

### (1) 評価できる点

- ・ 職員の環境問題への意識が高く、環境行動に強い意欲をもって取り組んでいる。
- ・ 杜の都エコ・スクール活動など、教育にもつながる環境活動に取り組んでいる。

- ・ 学校など指定避難所への太陽光発電設備、蓄電池の設置を進めており、防災機能とカーボンニュートラル機能の両立に取り組んでいる。

## (2) 改善及び検討を要する点

### ①少量危険物の貯蔵状況について

消防法においては、危険物の指定数量が定められており、指定数量の5分の1以上指定数量未満の少量危険物の貯蔵にあたっては、仙台市火災予防条例に基づき最大貯蔵数量等を届け出る必要があるほか、変更する場合も届け出る必要がある。

しかしながら、複数の部署において、これらの規定が遵守されていなかったため、是正に向けた対応が必要である。

### ②産業廃棄物の保管について

廃棄物の処理及び清掃に関する法律においては、産業廃棄物の保管にあたり、一定の大きさ以上の掲示板を設置することや、数量、最大保管高さの表示など、保管基準が規定されている。

しかしながら、これらの基準が満たされていない不適切な保管状況が見受けられたため、是正に向けた対応が必要である。

## 3. 被監査局・区等に係る所見

### (1) 危機管理局（現場監査：危機管理課）

#### ①評価

指摘事項等なし

#### ②意見

##### [優良事項]

- ・ 避難場所に備蓄している非常食のロスを地域の活動や食料バンク等に寄付することで食品ロスがないことを達成していた。
- ・ 環境局等と連携して、学校など指定避難所への太陽光発電設備、蓄電池の設置を進めており、防災機能とカーボンニュートラル機能を両立させている。

##### [推奨事項]

- ・ 車両については、避難所の備蓄物資の入れ替えや防災取組みを伝えるイベント等での使用が主とのことであったが、短距離で決まったルートでの使用が中心と考えられるので、車両入替の際には電気自動車の導入が望ましい。

### (2) 宮城野区（現場監査：総務課）

#### ①評価

##### [改善]

- ・ 灯油の保管状況について、消防法及び仙台市火災予防条例で定められた、届け出が必要な数量以上の灯油が保管されていたが、少量危険物の保管の届出等の対応が実施されて

いなかったため、適切に対応すること。

## ②意見

### 〔優良事項〕

- ・ ヒアリングにおいて、「環境行動の実施のためには、何のために行動するのかを職員に周知し、職員が理解することが重要」との回答があった。指示されたことをやるだけで理解が徹底できていないケースも多い中、目標達成のために、とても大事な意識であった。
- ・ 全ての部屋の温度が管理室のモニターで、一目でわかるようになっており、快適な労働環境維持や、省エネ管理の上からも良い点であった。各フロアーに設置された温湿度計や濃度計を参照しており、適切な空調管理が実施されていた。今後、仙台市の全ての施設に導入できると良い。

### 〔推奨事項〕

- ・ 宮城野区文化センターが新しい施設のため、利用頻度が高く廃棄物増につながったとの説明があったが、利用者の持ち帰りを促す場合でも、どこかで廃棄物となるため、バックヤードにわかりやすい分別 BOX を設置することや、イベント等の利用主催者にごみの削減・分別の徹底を促すなど、持ち帰り以外の策も講じることが望ましい。

## (3) 建設局（現場監査：八木山動物公園管理課）

### ①評価

#### 〔注意〕

- ・ 感染性廃棄物の識別表示はあったが、その他の廃棄物の識別表示が法的要求を満たしていなかったため、適切に対応すること。
- ・ 園内の動物病院の視察においては、病院内の備品や手術道具、薬品等の管理が乱雑であった。劇薬等、法的な規制があるものは規制に沿って管理しているとの説明は受けたが、問題が起きる前に、執務室環境の改善も含めて見直すべきである。

## ②意見

### 〔推奨事項〕

- ・ 「家電リサイクル法対象機器台帳」について、後日の追記が多かったため、これに限らず記録すべき台帳等については、どのタイミングで誰が記載するのか、定期的について誰がチェックするのかといったルールをきちんと定めておくことが望ましい。
- ・ 今後の園の改修計画においては、獣舎や来場者用飲食スペースの断熱化や、動物の数の調整による環境改善等を行うとのことであった。動物園を環境教育の場として再度見直す際は、現在もある SDGs の展示物のように工夫を凝らして、環境の取り組みをわかりやすく楽しく PR していくことが考えられる。また、動物園の価値を、SDGs など国際理念の観点からも位置づけることが望ましい。
- ・ 園内の設備更新や空調管理の工夫を、カーボンニュートラルを進める重要な手段であると再認識して、その意義を来場者にも発信することが望ましい。
- ・ 大学生や市民の協力者を得て、動物園の間接業務の一部を（環境）インターンシップと

して解放し、市民参画型の新たな運営を試行することが考えられる。

- ・ 独自目標として管理棟における電気使用量の削減目標を設定しているが、本施設は、市役所全体の中でも、特にエネルギー使用量が大きい施設であることから、施設全体での目標を設定し、更なる削減に努めることが望ましい。

#### (4) 教育局（現場監査：学事課・八木山南小学校）

##### ①評価

###### [改善]

- ・ 少量危険物貯蔵取扱所では、灯油 490 ㍓と表示があったが、実際はガソリン 30 ㍓、灯油 500 ㍓以上が保管されていたため、適切な表示と届出を行うこと。

###### [注意]

- ・ 学校でのエアコン使用や一人一台端末導入等により電力使用が増加しているとの説明を受けたが、教育局において、現場の状況把握が十分ではない状況が見受けられた。電力使用を抑えるための断熱補修やセンサー式 LED の導入、太陽光パネルの活用など、予算内で実施できる対策の検討や、一人一台端末の利用状況や有効活用できているのかなど、現場の状況を把握したうえで改善策を検討すること。また、環境配慮に関する学校の取り組みを積極的にアピールすること。

##### ②意見

###### [優良事項]

- ・ 杜の都エコ・スクール活動は大変すばらしい活動であった。
- ・ 夏場にへちまのグリーンカーテンを設置したことや、学校農園で野菜を栽培していること等の説明があった。現場の状況を生かし、教育にもつながる環境活動はとても良いことであるので、今後も継続すること。

###### [推奨事項]

- ・ 市の施策で太陽光発電システムを備えている学校が多いが、これを防災の備えと考えるだけでなく、普段から活用し、モニター等で発電状況を把握することで、子どもたちの環境教育にも有効活用することが望ましい。教育局として、設置されているすべての学校で環境教育にいかすよう呼びかけ、取り組みの発表・発信など外部へのアピールを検討すること。
- ・ 視察した部屋のエアコンは、全て高所に設置されていたため、冬場の省エネと快適性の向上のために、全室にサーキュレーターを設置することが考えられる。
- ・ 新型コロナやインフルエンザの関係で、ごみの分別徹底や牛乳パックをつぶすこと等ができず、廃棄物の増加につながっていると説明があったが、衛生管理は何よりも優先である一方、自分で出す牛乳パックを自分できちんとつぶし、手洗いを徹底するなど、できる対策を検討すること。
- ・ 老朽化が進む校舎を使用する日常下で、空調機の運用など独自の工夫を加えている点は優れている。一方、窓空け換気など、エネルギー消費の増加をもたらす応急的な対応から、全熱交換型換気扇の設置など、恒常的な設備更新を進めることが望ましい。